

ふるさと兵庫 見て歩き

vol.5

岩崎の火祭り どんど焼きの巻

10月17日(土)曇り 山間部では小雨の予報。岩崎で珍しい「どんど焼き」の行事が行われます。空模様が怪しく「心と秋の空とは言い得て妙！」と感心しながら心もわくわく 甲国自動車道～舞鶴若狭自動車道を岩崎へ急ぎます。つるべ落としの秋の日はとっぴり暮れるのが早い。五社神社に着いたのは午後7時。虫の飛びがにぎやかに出迎えてくれました。神社の暗い境内では青竹で建て込みしたどんど道径約5m×高さ約5m)が火祭り静かに待っています。都会では見られない天を突ばかりの豪快なものです。先人が苦勞して大切に守り伝えてきたの伝統行事を途絶えることな 継承していく 元気な村づくりの担い手の活躍が期待されます。さてどんな炎の祭典が繰り広げられるのでしょうか？

見事な飾り餅のお供え物
明日 餅まきで賑わわれます



お灯明をあげて祈ります



鎮守の神様をお迎えます



五穀豊穡 無病息災を願います

とんどの火にあたりたら風邪ひかたのや、ちあたら温まらしてなななぞ、新米顔で話してくれました。



一般的にとんど焼き(左儀長)は一月十五日頃 長い青竹を三四本組み 門松や注連飾りお札等を持ち寄り焼きます。その火で焼いた餅を食べ 灰を持ち帰り家の周囲にまくと一年間無病息災に過ごせるのだそうです。その年の福徳を司る百神の道祖神 歳徳神(とんどさん)を焼くことにより 災と共に身送ることに意味があり、焼いた時に炎が高く舞い上がるとうまいとも言われています。豊穣に感謝し、いざとし生けるもの総ての幸せと無病息災を願い、古から守り続けられてきた大切な行事。岩崎のとんど焼き、お参りの若狭男女を交え赤く染め温かく包みます。青竹の爆せる音が山間に響き、舞い上がる炎は夜空を焦がし、岩崎の夜は更けていきます。



三々五々お参りに集まる村人 午後8時 点火！



青竹の弾ける音、舞い上がる火の粉は夜空を焦がす



紅蓮の炎に包まれ火の祭りは最高潮